

(別紙2)

審査の結果の要旨

氏名 山本 堯

本研究では、東周時代の中国・華中地域における社会構造の変革を、青銅器の生産、流通体制の側面から捉えようと試みている。

第I章では、東周時代の青銅彝器に関する研究史において、器形・紋様・鑄造技術が総合的に捉えられておらず、編年研究が遺物の共伴関係に依存しすぎていたこと、また、型式学的変化が生じた理由が等閑視され、個々の青銅彝器のライフヒストリーが十分に検討されていなかったことを確認した上で、課題設定を行った。

第II章では、華中地域における青銅彝器の編年を10期に区分し、銘文等から各期に年代を与えた上で、単位紋様の表現方法が製作系譜に応じて異なることを明らかにした。戦国時代前期に製作系譜が複数存在する状況が変質し一元的な生産体制が確立したと判断し、そこに社会変革の画期があると主張した。

第III章では、国家事業としての軍事に関わる青銅製武器である戈戟の編年を6期に区分し、銘文等から各期に年代を与えた。製作系譜の違いを表象する形態的特徴を5種に分類し、生産・流通体制の変遷を捉えた。そして、華中地域では戦国時代前期に青銅製武器の生産体制が一元化し、中原地域と同様の動きが生じたと論じた。

第IV章では、河南省浙川県楚墓群出土の青銅彝器のライフヒストリーと歴史的背景を検討し、春秋末期に他氏族から贈与された器ではなく自ら長期継承した器が重視されるようになったことを明らかにした。そして、自らの地位の絶対性が失われていく中で、宗主権の正当性を主張する手段として自らの氏族内に伝わる青銅彝器の保有や継承の重要性が増したと説いた。

第V章では、青銅彝器の分析対象を中国全土にひろげた。山西省侯馬市鑄銅遺跡の出土鑄型の分析から、青銅彝器が一諸侯国の範囲を超え、遠隔地にも流通したことを明らかにした。また銘文の分析から、婚姻・贈与等の様々な儀礼的行為が移動を繰り返す青銅彝器の長期間伝世を促した可能性があると考えた。そして、西周時代の青銅器を忠実に模倣した春秋時代の青銅彝器には伝統を表象する機能が備わっていたと論じた。

第VI章では、東周時代の財政・物流機構や社会組織に迫った。戦国時代中期頃の華中地域・楚国でも中央集権化が一定程度進行し、戦国時代前期が集権化の形成過程における一大画期となったと判断した。

以上、従来の中国における青銅彝器・武器研究を検討し、新たな視点による綿密な分析を通じて華中地域、とくに楚国における東周時代の社会変容、中央集権化への進行過程を辿り、戦国時代前期が重要な画期となったと主張するに至った。

生産・流通に関する広域的な議論に及ぶためには、今後対象地域を拡大して検討資料を増やしていく必要はあるが、本論文が華中地域における東周時代の動態を考える上で非常に重要な知見を明らかにしていることには疑問がない。よって、審査委員会は一致して、本論文が博士(文学)の学位を授与するにふさわしいものと判定する。